

青森県は世界の最先端にある!!

田原 なぜ原子力を進めるのか。理由として3

つあげられると思います。まず一つは資源の問題。石油、石炭、こういう化石燃料が将来なくなるんだということ。そして二つ目は環境問題。化石燃料だと二酸化炭素をどんどん吐き出していく。原子力発電だと運転中の排出はゼロであること。そして三つ目は放射線の有効利用など原子力の様々な可能性です。

藤家 そして軽水炉での発電の段階である再処理はじめ原子燃料サイクルはウラン資源の有効利用を図り、将来にわたるエネルギー問題、環境問題を解決するものです。放射線利用については今や、社会の隅々まで至り、その先進的利用、特に医療分野をはじめ多くのところで新しい科学技術の世界を生み出す期待があります。ですから、原子燃料サイクルを始めとする原子力施設がある青森県にはそういう可能性が大にあると考えています。

田原 そう。僕はね、今は発想の間違いがあると思うんですよ。青森は田舎だということ。

田原 産業が来てくれないから渋々原子力をやらなくちゃならない。それは違うんです。原子力最先端県、エネルギー最先端県なんですよ。一番先を行ってるんだから、ここでの技術を青森から世界に広げていくんだっていう考えがあってもいい、もっと誇りをもていいと思いますよ。

藤家

はい。まさにどこかをまねる技術から、世界の最先端に行く技術をどうやって青森で実現するのか。その中で、時間をかけてじっくり取り組まなければならぬ部分、思い切って前に進まなければならない部分が出てきます。原子力のいいところばかり見るのではなく、そうでない部分もしっかり見る必要もあります。科学技術は、いいところがあれば欠点もある。欠点をいかに克服しながらいいところを伸ばしていくかが大事です。それが科学技術です。

田原

司馬遼太郎さんが「坂の上の雲」という小説を書いた。明治のそのころは、アメリカ、ヨーロッパは坂の上にあつたんです。日本は坂の下だった。坂の上にあがる

藤家

るには、坂の上の技術、いろんなものを導入する以外なかった。だけど、日本は今や坂の上にあつたんですよ。坂の上にあつてフランスやアメリカの技術も導入するけれども、この技術が日本とは違うなと思えば日本は考える。つまり、自分で考える能力が出てきたということです。軽水炉では間違いなく日本が世界一です。そういう自信を持って、世界に広めていけばいい。青森には大きな可能性がある。そういうことですね。その通りです。



青森県エネルギー総合対策局 原子力立地対策課

〒030-8570 青森市長島1丁目1-1 Tel.017-734-9738(直通) Fax 017-734-8213 E-mail g-richi@pref.aomori.lg.jp

■原子力立地対策課ホームページ <http://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/energy/g-richi/>